



宮本友昭 Tomoaki Miyamoto

在マーシャル日本国大使館 専門調査員(経済協力)  
(2009年3月 国際協力研究科博士課程前期修了)  
受け身ではなく、自分の中で目的意識を持つ

—仕事内容は?

マーシャル諸島における経済状況の調査です。具体的には、GNIや輸出入の状況について、データ分析や近隣の島国との比較調査を行っています。マーシャル諸島は他

国からの援助を多く受けていますので、国際機関からの援助動向を調査することもあります。日本も援助を行っていますが、現地の調査が十分でない、援助してほしいことと実際の援助にずれが出てきてしまいます。効果的で持続的、かつ、現地のオーナーシップを最大限に生かせる援助が求められますので、日本の外務省に報告する調査内容はとても重要です。

—仕事をする上で大変なことは?

マーシャル諸島は平和で、人々はとても親日的なので、正直、そんなに大変だと思ったことはありません。日本と比



べて時間や締め切りの意識が低く、人材が少ないので担当者が不在だと話が進まないなど、思うようにいかないこともよくあります。でもマーシャルの人たちは、時間はかかってもしっかりと仕事をしてくれます。締め切りを早めに伝えるなど、自分で工夫しながら仕事をしています。以前、JICAの青年海外協力隊に参加し、2年間マーシャル諸島に滞在した経験があるので、今もそのときの経験が生きているのだと思います。

—大切にしていることは?

自分のやりたい仕事としてここに来たし、すごくやりがいがあるので、多少持っていたイメージと違うところがあっても、楽しんで仕事をするように心掛けています。

外務省の在外公館なので、日本の国益を第一に考えなくてはいけないのですが、同時に、「どうすれば、マーシャルをもっと良くできるか」ということも常に考えながら、仕事をしています。

大使館では、現地の職員と一緒に働いていますが、この仕事は2~3年という任期があるので、自分のしてきたことをうまく引き継いでいくために、彼らに日本人の仕事ぶりやマネジメントの大切さを教えていくことにも、力を入れています。時には行き違いもありますが、押し付けではなく、相手を尊重しながら「対話」を大事にしています。

—広大生へメッセージを!

学生の間は、受け身になることが多いと思いますが、自分で問題を見つけて取り組み、結果を出せる「問題発見能力」を培ってください。あとは、目的意識をはっきりさせること。目標を設定すると自分に足りないものが見えてきま

す。それを埋める作業が大事なんです。僕は、院生時代に難民キャンプを訪れた経験から、いずれ彼らの帰還後の教育に携わりたいと考えています。そのために今何を学んでおくべきか、自分に足りない部分を補完することはとても重要です。そういう観点で仕事をしています。とにかく自ら考え動くこと、これが大事ですね!

社会の第1線で活躍している先輩たちを、学生スタッフがインタビュー。仕事のことから学生時代に身につけておくべきことはまたインタビューのテーマ。私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。



—現在の仕事を選んだきっかけは?

もともと1つ上の先輩から誘われて、小学5年生のときバスケットボールを始め、それから中学・高校・大学とバスケットを続けてきました。大学卒業後は地元に戻ることも考えましたが、進路決定をする際に、現在のチームの監督に声を掛けていただいたことがきっかけで、実業団バスケットの道を選びました。自分にはバスケットかと思ったのが、今の仕事を選んだ一番の理由ですね。

—学生と社会人の違いは?

時間の使い方が一番違いますね。大学生の間は、夜遅くまで遊んだり朝寝坊したり、自分の好きなように時間を使えますが、社会人になると、一日の中で拘束されている時間が長いので、限られた時間の中で自分のやるべきことをやらなければなりません。私の場合、8時半から16時まで刊行物やHPの作成、展示会出展など広報部での仕事をして、その後17時ごろから20時までバスケットの練習をし、21時ごろ帰宅するという生活を送っています。本当ならもっとお料理などもしたいのですが、平日は忙しくてなかなか時間がありません。

—広報部での仕事とバスケット。

それぞれで大切にしていることは?

バスケット部は、特別に普段の仕事を早く切り上げて練習に行ったり、試合のために仕事のお休みをいただいたりしているので、広報部での仕事のときは、120%の力を出して自分のできることをするようにしています。また、バスケットは私のすべてなので、バスケットがうまくいかなければプライベートもうまくいかないし、だからこそバスケットをするときは楽しむようにしています。



—今、心掛けていること、今後の目標は?

社会人2年目で、試合中にひざの靭帯を切ってしまい、歩くことさえ困難となり、1年を棒に振りました。それまでは、ちょっと体がきついと練習が嫌だともありましたが、けがで練習ができなくなった時に、バスケットができることの幸せを痛感しました。復帰に向けてコツコツと練習を続けることで、小さなことでも続けられたらできるようになることも実感



しました。限界を作ったらそこまでしかがんばれません。だから自分で限界を決め付けず、現役のうちは常に走り続け、チームを引っ張っていきたくと思っています。

—広大生へのメッセージ

時間を大切にしてください。大学生はいろいろなことができます。そのことに気付いてほしいです。また友達をはじめ、先生・先輩・後輩など、つながっている人を大切に、ずつつながっていてほしいと思います。



梅本恵里 Eri Umemoto

トヨタ紡織サンシャインラビッツ  
(2004年3月 教育学部卒)  
時間を大切に、自分のやるべきことに120%

取材を終えて



サークルの先輩だったこともあり、よく知っていた宮本さん。しかし、あらためてインタビューをすると、私の知っている宮本さんとは違い、しっかりと自分の道を歩んでいる姿に感銘を受けました。私も、目的意識を持って、いろいろなことを考えて行動し、宮本さんのように「大学時代にやり残したことはない」とキッパリいえるようにがんばりたいです。

取材・記事/教育学部3年 君原 晴佳



モデルのようにすらっとした体形に小顔。部屋に入ってきたときから人並みでない雰囲気を感じさせてくれた梅本さん。「バスケットボールは私のすべて」と話すその姿は本当にきらきらしていて、プロとしての意識がうかがえました。私も将来就職について、それが自分のすべてだと言い切れる人になれるよう努力しようと思いました。

取材・記事/教育学部2年 内山 亜里紗